職員用：穂波東校小中一貫教育だより
令和元年度 11 月 7 日　第 7 号
文責：小中一貫校穂波東校　山本

今回は 10 月 24 日に呉市立呉中央学園の研究発表会に参加した中学部 嘉村教頭先生のレポートです。飯塚市がモデルとしてきた呉中学園の現在の様子がよくまとめられています。ぜひ、ご一読ください。

呉中央学園研究発表会に参加して

穂波東校中学部　嘉村美津子

（1）呉市および呉中央学園の概要

呉市は広島県南西部に位置し、瀬戸内海に面しているため明治時代以降は、帝国海軍・海上自衛隊の拠点となっています。また、造船・鉄鋼・パルプなどを中心とした臨海工業としてとして発展しています。

呉市立二河小学校、五番町小学校、二河中学校は平成１２年度から７年間にわたり文部科学省（当時文部省）の研究開発学校の指定を受け、全国に先駆けて小中一貫教育の研究をスタートさせました。その中で実施された「４・３・２制の教育区分」「乗り入れ授業」「小中異学年交流」等は、全国の小中一貫校に大きな影響を与えてきました。そして、平成１９年度に呉市は二河小学校と五番町小学校を統合して小中一貫校呉中央学園を開校し、平成２３年度に施設一体型小中一貫校呉中央学園を開校しました。現在の学校の規模は、小学部の児童数は６３７名（２１学級)、中学部の生徒数は２５９名（１１学級）です。

（2）研究発表会から学んだこと

呉中央学園の児童生徒の授業の様子は、自分の考えを積極的に発言したり、先生や友達の説明から課題解決に向けて取り組んだりしている子どもたちが多い中、「授業に集中できない」「既習の内容が定着できていない」等の子どもたちの姿も見受けられ、本校と類似していると感じました。

昨年度より市の研修指定を受け、研究主題を「深い学びを実現する授業の創造－思考過程の工夫による授業改善を通して－」とし、小中一貫教育を推進するために教科教育部会、キャリア教育部会、道徳部会の３部会が構成されました。各部の定例会は、月１回ですが各研究部会で提案される取組を１年から９年の各学年会議で共有し、小中全職員が共通実践を行っているということでした。また、今年度は小学部・中学部共に職員の異動による入れ替わりが多く、年度初めに呉中央学園小中一貫教育の研修を行うことでこれまでの教育活動や今年度の教育活動を共有していました。

この他には、不登校児童生徒の解消に向けて、学校独自の個別の記録用紙に生徒の情報及び担任等の取組を学期毎に記録し、情報を引き継ぐことができるように取り組んでいました。

「呉中央学園」として１１年目を迎えた小中一貫校の教職員の方々から直接お話を伺い、次の２つのことについて本校でも実践することが必要だと感じました。

○　教務主任がコーディネーター役となって小中間の連絡調整を行い、各研究部の取組を小中合同職員会議や学年会議で検討し、実践する。
○　先達の先生方が築いてきた教育活動を大切にすると共に現在の教育課題を解決するための新たな取組に挑んでいく「ビルド・アンド・スクラップ」で実践する。

今回、呉中央学園から学んだ事を本校の課題解決に向けた取組に生かして行きたいと思います。